

「令和6年度 第1回高知県総合教育会議」

開催日 令和6年6月21日（金）13:30～15:00

開催場所 高知商工会館 3階「寿の間」

\*\*\*\*\*  
(司会)

定刻となりましたので、ただ今から令和6年度第1回高知県総合教育会議を開会いたします。私は議事進行を担当します高知県総合企画部長の松岡と申します。よろしくお願いいたします。

本日の会議では、本年度から運用が始まりました第3期教育大綱の主要な施策の一つである教育DXについて主にご協議いただきたいと思いますと考えております。

では、議事のご確認をさせていただきます。まず議事(1)では、第3期教育大綱の施策ポイントについてご説明させていただきます。

また、議事(2)教育DXの推進については、先進的な取り組みをされている香美市教育委員会教育DX統括官の上村様、香美市立鏡野中学校長の切詰様、県立高知国際高等学校長の高野様にご発表いただき、その後、意見交換及び協議をいただくこととしております。なお、町田委員については本日欠席とのご連絡をいただいております。それでは、開会に当たりまして濱田知事からご挨拶を申し上げます。

(濱田知事)

皆さま、こんにちは、知事の濱田でございます。本日は令和6年度1回目高知県総合教育会議の開催ということでございます。委員の皆さま方は、大変ご多用のところご出席をいただきましてありがとうございます。

さて、本日の会議は、本年3月、昨年度末に策定いたしました第3期教育大綱がスタートして初めての会議ということになります。今回まず、大きな議題としては、この第3期教育大綱のおさらいをということでもあります。この策定に当たりましては、この会議での議論を重ねますとともに、高校生や教職員関係者、様々な方からご意見を伺いまして、いただいた声を踏まえて策定したわけでございます。

今、本県は人口減少の克服を一番の重点課題としておりますが、やはり教育がそこに果たす役割は大変大きいと思っております。一つは、直接的に移住などをお考えいただく、UターンIターンをお考えいただく若い世代の、子育て世代の方々にご子息の教育、高知の教育レベル、教育内容、そういったものが信頼に至るものであるのかというところが厳しく見極められるということだと思っておりますし、そういった意味でしっかりした教育を高知県内で展開しなければいけないということがございます。もう一つ、人口減少対策の有識者の会議などを行っている中でご意見伺いましたのは、もう少し中長期的な視点から、今高知に住む子どもたちが高知県でしっかりと教育を受け、いわば、高知の素晴らしさをしっか

りと学んでいただく、身に付けていただくということが、先々いったん都会に出ても高知に帰ってこよう、高知はやはりいいところだと思ってもらえるような、そんな教育ができているかどうかというところが、中長期的には高知の人口減少対策が成就していくかどうかということ、大きく左右するのではないかといったご意見もいただいております、そうした観点からの高知県の教育の、いわば基本となります教育大綱をまとめていただいたところでもあります。

そうした中で、特に今期におきましては、いわゆる知・徳・体の、特に徳の部分でございますけれども、不登校は必ずしも問題行動ではないんだといったような、一つの新しい提示というところも含めまして、学校教育の中でそういった多様性の尊重、多様な価値観を尊重していくという、大きな方向性を打ち出させていただいたことは、大変大きな意味があると思っております。そうした中で元気で豊かな、そしてあったかい高知を実現していくという点について、教育の側面からもこれは後押しをいただいて、次の世代に高知を引き継いでいくと、そういうところにご貢献をいただければありがたいと思っております。

本日は、もう一つ大きな論点といたしまして、教育のデジタル化に関連いたしまして、現場で実践をいただいている先生方のお話を伺いたいということがございまして、上村統括官、切詰校長先生、そして高野校長先生にお越しをいただきました。現場でのデジタル化に関わります取り組みの状況、そして、そうした中で現場で感じておられる課題、また、その解決の方向、そういったものにつきまして、ぜひ、この会議でもご示唆をいただきまして、我々としても、今後の教育DXの推進ということに関しましても、方向性を見出すためのいい情報を頂戴できればありがたいと思っております。

本日お越しいただきました先生方から、こうした先進的な事例についても、お伺いさせていただくことを通じまして、我々の会議で議論いたします教育のデジタル化ということについても、より深い形で今後議論ができるということをご期待申し上げます。そうした意味で、本日は委員の皆様方、参加いただきます先生方の忌憚のないご意見をいただきますことを心よりお願いをいたしまして、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

(司会)

ありがとうございました。それでは、早速、議事に従って進めさせていただきます。まず、議事(1)の第3期教育等の振興に関する施策の大綱の施策ポイントについて事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

県教育委員会参事の鈴木でございます。議事(1)についてご説明をいたします。先ほど知事のご挨拶にもございますように、昨年度ご議論をいただき、また、昨年度末に策定に至りまして、今年度から運用が開始しております第3期教育大綱につきまして、本日、大綱の初年度の、また、初回の会議ともなりますので、改めて概略を確信的に少しご説明の

時間をいただければと思います。

本日は、まず資料1といたしまして、こちらは教育大綱の概要版の資料をご用意しております。タブレットでは、02番資料1となっております資料をお開きください。

こちらの内容につきましては、昨年度も既にご確認をいただいているものとなりますので、改めて仔細は申し上げませんが、まず、概要版表紙右上にもございますように、「きらっといきいき あったかい高知家の教育」をキャッチコピーといたしまして、本県の教育の在り方や各種取り組みの方向性などについて取りまとめたものとなっております。

こちらの資料の3ページをご覧ください。こちら、教育大綱等の策定と関係性のイメージというスライドが入っておりますが、こちら教育大綱等についての基礎事項を掲載しております。こちら中段の記載にもございますように、本大綱は令和6年度から令和9年度までの4年間の大綱となっております。

また、4ページをご覧ください。こちらは本大綱の体系を掲げてございます。こちらの全てのご説明は、本日はお時間の関係もございますので割愛いたしますけれども、1点、今般の教育大綱のポイントを申し上げます、本県の教育の目的として位置づけております一番上段の目指す人間像（基本理念）につきましては、三つございます。上二つの、こちらの人間像につきましては、従前の人間像で不変のものとして維持をしつつ、今大綱では新たに三つ目の「多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人」という人間像を加えまして、この三つを総合的に目指す人間像として位置づけております。5ページ以降は各種指標、また、各種具体的な取組事業についての内容となっております。資料1の説明は以上となります。

続きまして、資料2をご覧ください。03番資料2となっております。こちらは、今回新しい資料としてご用意をさせていただきました。第3期教育大綱等に掲げる取り組みを進めた学校のイメージという資料でございます。

こちらは、文字どおり今回の教育大綱等に掲げております各種の取り組みを教育委員会や学校において進めることで、学校において広がっていく風景、様子の一連のイメージを生徒、教師、校長の目線でビジュアル的にご紹介をしたような資料となっております。こちら本日は時間の関係で仔細はご説明いたしませんけれども、例えば生徒の目線でいえば、3ページから以降、生徒の視点でどのような形で学校が変わっていくかといったようなことのご紹介をしております。4ページ、あるいは5ページには、例えば授業や学びがどのように変わっていくかといったようなご紹介をしております。4ページのタブレット端末の授業の変化といったものは、このあと議事(2)に関わりますので、その際に、また改めて詳しくご説明をさせていただきます。

また、生徒の視点からの様子のイメージが続きまして、7ページからは、教師の目線、教師の視点という資料も入れてございます。こちら、例えば8ページにございますように、授業の仕方等々がどのように変わっていくか。また、10ページにございますように、教員への支援の体制というものがどのように変わっていくか。

また、11ページにございますように、学級運営等の新たな形がどのように広がっていく

かといったようなことを示したような資料となっております。

また、校長の目線では次のページ、12 ページ以降にございますが、特に学校運営の様子といったものが、この新しい教育大綱のもとに、どのように展開されていくかといったようなことをお示したものとなっております。こちら、またお時間があります際にご覧いただければと思います。こちらの議事(1)の説明は以上となります。

(司会)

ありがとうございました。今、事務局から説明がありました議事(1)については、このあとの議事(2)の取り組み発表等の内容と併せてご協議いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事(2)の教育 DX の推進について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

続けて失礼いたします。議事(2)についてご説明をさせていただきます。

議事(2)教育 DX の推進についてでございますが、このあと、先ほどご紹介いたしました具体的な先進事例について、日々ご実践をいただいております方々のご発表を予定しておりますが、本日お越しの方からのご説明をいただく前に、まず、教育 DX につきましての一般論的な考え方を、本日お集まりの皆さまに共通してご承知おきをいただく趣旨から、私より総論的なご説明をさせていただければと思います。

資料は、端末におきましても資料 3 として PDF でご用意はしてございますが、本日投影資料をご用意いたしましたので、前のスクリーンを恐縮ですがご覧いただければと思います。

まず、先ほど少し触れました資料 2 の今後の学校の様子のイメージの資料でございますが、こちらは先ほど、後ほどご紹介をすると申し上げておりました児童生徒の視点から見た授業の今後として、端末を活用した様子についてのご紹介をさせていただきました。こちらを、まず、少し深掘りをさせていただければと思います。

現在、今後の将来の中で生きていく子どもたちの力を育むために、教育やあるいは学びにおいて大切だというふうにされております考え方の言葉がございます。それが個別最適な学びと協働的な学びでございます。これは全国的にも、また本県におきましても、授業づくりなどにおきまして、一つの大きな共通したキーワードとして掲げられる考え方でございます。

この個別最適な学びは、二つ大きく意味があるとされております。まずは、子どもたちの特性や、また、進捗などに応じまして柔軟に指導していくという指導の個別化。そして、子どもたちの興味、関心、あるいは今後のキャリアの方向性などに応じまして、最適となる学習を調整していく学習の個性化という、この二つの考え方が含まれていると言われております。

また、協働的な学びにつきましては、文字どおり、多様な他者と協働しながら尊重し、また、異なる考え方が組み合わせり、そして、より良い学びを生み出すというような学び

のことを指します。この個別最適、協働的な学びを一体的に進めていくことが重要であると言われております。

しかし、これが大事であるという考え方自体は、あまり否定はされないところではありますが、他方、言うは易しでございまして、それをどのように実現をしていくかといったことが、当然論点となります。ここに、解決策として登場してくるのが1人1台タブレット端末などのICT環境であると考えております。

先ほどご説明をしましたような学び、授業づくりを行ったり、学校、学級を運営したりするに当たって、なかなか難しく実現できていなかったが本来はしたかったこと、すべきだったことを実現できる、そういったツールとして存在するものである。まず、こういった考え方をしっかりと認識をしておく必要があるというところがございます。

では、端末などのICT環境が先生方、学校のしたかったことなどを実現していく上でのツールとしての強み、ICTなどによってしやすくなる、できるようになるといったようなことは何なのかと申しますと、それは様々ございます。例えば端末などは情報の検索、資料の選択、あるいは他者との情報共有、また、他者の意見や考え方のオンタイムでの参照や発表、また仮想体験などを、様々な紙のベースでは相対的に困難でありました授業の方法の選択肢を選ぶことができまして、授業展開の幅が広がるといったようなことを実施しやすいというのがございます。また、子どもたち一人一人の状況を瞬時に集約、把握をして、それを持って次の学びに展開、フィードバックをしやすいついものがございます。そして、端末の持ち帰りなどにより授業で実施をしたことをそのまま家庭につなぎやすい、学習習慣の定着につなぎやすい、そういったつなぎやすい、定着させやすいといったこともございます。

そのため、こういったICTの強みをしっかりと踏まえた上での授業改善などを図っていくことが重要となりまして、授業改善などに当たりまして、ICTが合わない場面も当然あるところでもございますし、またICTを使うにしても、その強みをうまく生かして活用するといったことが真に必要なとなります。このICTは、授業改善という目的を実現するための適切なツールとして活用されることが必要という状況になっています。

だからこそ端末を活用しているといいましても、単に紙でやっていたことを端末やモニターにそのまま置き換えているだけでは、まず、それは第一歩としては必要ではございませんが、本来の活用ではございません。端末の活用自体が目的ではございません。端末などは、先ほど来お話申し上げておりますように、その強みを生かして必要な取り組みを実現するに当たって支援してくれるツール、手段・手法として正しく捉えまして、そして生かしていく必要があるという状況となっております。

総括ではございますが、いずれにしても学校という場が、社会に出た後に必要な力を身に付ける場であれば、当然、社会というものを意識しなければなりません。そうしますと、例えば社会では、本の問題集を解くように、問いというものに向こうから現れてくることは、ほとんどございません。どのような課題があるかを自ら見出して解決策を求めていくという力が求められます。また、例えば会社で働いていて、上司からこのプロジェクトはパソコンでやるようにといったやり方を逐一示されるわけではございません。自らその追

究方法を見極めていくことも必要になってまいります。

そして、ときには情報を検索したり、他者の考えも参照しながら、自らの考え、企画を常に更新していくことも必要となりますし、また、様々な考え方などがある中で、他者とコミュニケーションや協働したり、ときに発信をしながら取り組みを進めていくことが社会では必要になってまいります。

そうしますと、逆算して、このような社会で必要となる力が身に付けられるよう、このような物事への取り組み方を自分事として落とし込めた上で学校を卒業できるよう、学校は授業や学びの展開、そして、改善を図っていくことが必要となります。これが、いわゆる今言われております授業観・学習観の転換でございます。

先ほど来申し上げておりましたように、端末などがツールとして最大限に強みを発揮できる使いどころをしっかりと踏まえまして、また、学校が社会において必要となる力を育成する場であることを改めて意識し、高知県教育委員会といたしましても様々な授業改革などに向けた取り組みを進め、そして県下の先進的な取組事例を広げていければと考えております。

そして、本日はこの後、県下の先進的な取組事例として、義務教育段階、高校段階、実際の実践をご紹介させていただければと考えております。

それでは、まず、小中学校課よりよろしく願いいたします。

(小中学校課)

失礼します、小中学校課でございます。義務教育段階における教育 DX の推進についてご説明をいたします。

本日は初めに市全体で教育 DX の実現に向けた推進を行っている香美市教育委員会の上村統括官と 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用した学習者主体の学びの実現に向けて、学校全体で組織的に取り組みを進めている鏡野中学校の切詰校長先生にお越しをいただき、その取り組みをご紹介いただきます。その後、小中学校課の取り組みをご説明させていただきたいと思っております。

それでは、上村統括官、切詰校長先生どうぞよろしく願いいたします。

(上村統括官)

香美市教育委員会の DX 統括官の上村です。よろしく願いします。

まず、香美市の教育 DX プランについて説明させていただきたいというふうに思います。GIGA スクールのスタートからもう既に 3 年間に経ちましたけど、その実績も踏まえながら本年度市全体で「授業改善」と「働き方改革」を要とした取り組みを本格的に香美市の方としては進めていきたいと考えております。

香美市としても、クラウドを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実による深い学びの実現が重要であると考えて、市指定であります鏡野中学校をはじめとした、合わせて 5 校において研究を進めていくようになります。これは、県の指定の 5 校になります。

また、香美市の方には、あと5校合わせて10校あるんですけど、残りの5校につきましても、市独自に拠点校とか協力校ということで指定をさせていただいて、これに合わせて働き方改革も含めた校務DXの研究も行うようにしております。こうした取り組みはGIGAスクール検証委員会というもの、これは学校の校長も入ってますが、県、市内に工科大もありますので、工科大の教授、それと一般の市民の方も中に入っていて、この検証委員会の中で、その進捗状況等を確認しています。

また、年2回になりますけど、県外の大学の教授や、企業の専門家などの有識者の方も入っていただいたアドバイザリーボードという会を年2回行いまして、この中で意見をいただきながら、この事業を進めていきたいと考えております。

香美市の取り組みは「学びのDX」としての教員の授業観の転換、シームレス化、それと児童生徒の活用能力とか教職員の指導力の向上、ここの1番から4番までのところが学びのDXと位置づけているところになります。それに加えて、5番6番になりますけど、今後DXとしての業務改善に加えて、令和7年度末のセカンドGIGAに向けてのPCの入れ替えとか、通信環境の整備なども進めていきたいと考えております。

この推進プランにつきましては、右側にありますように7名からなる推進チームで月1回の確認会を行いながら、週1回は、この実務担当者による担当者会議で進捗状況の確認などを行っております。

また、時代の流れが速いために、国の動向も見守り、毎年プランの確認や修正も必要であると考えています。特に授業観の転換と授業と授業外のスムーズな接続につきまして、説明をさせていただきたいと思っております。

タブレットPCが1人1台になったことにより、児童生徒の主体性を伸ばす教育を進め、今までの教師主導の授業から学習者主体の授業への転換を行っているところです。鏡野中学校をはじめとした県指定の5校には、県の指導主事も入り、授業づくりを通して学んでいきます。また、その他市内の5校につきましては、県の指定の授業の参観、指導案の検証、指導案づくり、そういうところにも参加することもありますけど、市の単独事業で、ここにありますような取り組みをしていきたいと考えております。市の推進チームを各学校に派遣しながら、校内研修等を通して、直接的なサポートも進めていきたいと思っております。市では市独自の集合研修とか校長研修、先進校視察等も予定しております。

次に、授業と授業外のスムーズな接続、いわゆるシームレス化についてです。発達段階で取り組みに差はありますが、予習、授業、復習の各場面での取り組みが今までもされてきました。パソコンを使った学習によって、これもやりやすくなったところもありますけど、予習では主に、次の授業に向けての課題が出されるようになります。例えば次の時間はこれこれについて学習するので、これこれを調べてくるように、これはネット上で調べることができる。次の時間のために、この動画を見て動きを確認するように。そういう課題なども出されるようになりました。復習では定着のための復習課題、授業のまとめとか振り返りから自分のペースで学習できるデジタルドリルを行ったりもするようになっていきます。

自ら考える自主学习として、タブレットPCを使って学習する子どもも出てきています。

子どもたちの声からはここにありますような感想も出てきているところです。まだまだ途中段階ですが予習と授業・復習をつなげ、これを関連づけながらサイクル化につなげていけたらと考えております。

以上で、香美市の教育 DX の説明は終わります。続いて鏡野中学校から説明をしていただきます。

(切詰鏡野中学校校長)

香美市立鏡野中学校の学校長の切詰美穂と申します。どうぞよろしくお願いたします。

本校は香美市土佐山田町にありまして、生徒数は 368 名、校区の小学校は 5 校となります。昨年度より研究主題に課題解決的な学びを掲げ、授業づくりの研究を推進してまいりました。今年度は教育 DX の指定もきておりますので、全教科で ICT の活用の取り組みを重点としております。

本年度につながる昨年度の授業実践を少しご紹介させていただきます。

他者のクラウドの活用によって、他者の考えを共有することで自身の考えを再構築する材料にしたり、生徒全員の考えを共有し、いつでも見られるようにして課題解決の参考になるようにしたりしました。これらの授業を通して、主体的に学ぶ子どもの姿や学びの深堀りが見えました。また、学力の厳しい生徒も取り組むようになり、学習者主体の授業のよさを実感しております。

本年度は、教育 DX の授業づくり講座の指定校として、昨年度の成果と課題を踏まえた上で、クラウドの特徴を生かした個別最適・協働的な学びの一体的充実に向けた授業づくりによる課題解決的な学びを推進してまいります。

また、授業と授業外のスムーズな接続につきましても取り組みを進めているところです。こちら 18 ページが、研究推進体制となります。教科主任会を教育 DX 推進チームとして組織的にクラウドを活用した授業づくりに取り組むという形で研究を進めてまいります。教科主任会と教科会で相互にベクトルの共有、取組提案、実践そして課題を共有して研究の PDCA サイクルを回して取り組んでいきたいと思っております。4 月から、常時 ICT 機器やクラウドを活用した授業づくりについては協議を重ねてきております。

課題解決的な学びの授業において最も重要なのは、子どもたち自身が学習の見通しを立てるということです。これから、どのようなテーマを学ぶのか、子どもたち自身がしっかり理解し、どのような方法で、どのような計画でその学習を進めていくのか。子どもたちが見方、考え方を自身で働かせて、学びのプロセスを回していくこと、それがとても重要になってきます。社会に出ると自らが取り組むべきものを確認して取り組む方法を見出し、そして、調整しながら課題を解決したり活動したりしていくことが求められます。

また、他者とコミュニケーションを取り協働して進めることもあります。その力を授業の中で身に付けていこうというのが、この課題解決的な学びの授業となります。それには ICT 機器、クラウド環境を活用することで容易に実現することが可能となりました。その授業の様子を少し動画にまとめておりますのでご覧いただきたいと思います。社会科の授業です。

#### (動画上映)

ご覧いただいた社会科以外にも英語科は早くからクラウドを活用した授業を行っています。生徒の進捗状況をリアルタイムで教員が把握し、同時編集機能により生徒のスライドに助言を入れたり、直接生徒に支援したりもしております。

こうした取り組みを通して、現時点での研究の成果と課題を24ページにまとめております。ここには書かれておりませんがリモートで参加している子どもたちがありますが、その子どもたちも、この共有シートによって、本当に授業に参加をして自分でシートを作れるような成果もあります。それがすごくうれしいです。

鏡野中学校のチャレンジは、まだまだ模索中ではありますが、皆さまのお力をお借りして全教科で始めました。学習者主体の課題解決的な学びの授業づくりを、これからもチーム鏡野として組織的に推進してまいりたいと思っております。本日はご清聴、誠にありがとうございました。

#### (小中学校課)

上村統括官、切詰校長先生、ご発表ありがとうございました。鏡野中学校の発表の中にもありました動画でご覧いただきましたが、子どもたちは個人で学びを進めたり、友達と協力しながら学んだり、自分で学び方を選択して学習しておりました。これまでも先生方は、学習者主体の授業づくりに取り組んできていたとは思いますが、1人1台端末を活用することで、より効率的・効果的に学びを進めるとともに、異なる考え方が組み合わせることで、より良い学びを生み出すことが容易となりました。

小中学校課では、このような1人1台端末の効果的な活用を促進するとともに、子どもたち一人一人が課題を持ち、自分で学び方を選択し、友達と協働することで学びを深めていく学習者主体の学習を推進していきたいと考えております。

それでは、お手元資料のPDF資料04の27ページ、資料5をご覧ください。

小中学校課では、上段中ほどにありますように、ICTを最大限に活用し、授業・子ども・教職員、それぞれの期待される姿を目指して各種取り組みを進めてまいります。

資料中段の左にありますように、新たに教育DX推進チームを設置し、各教育事務所や教育政策課、高等学校課、そして各市町村教育委員会との連携を強化し、資料中段にあります六つの取り組みの充実を図っています。特に教育DXによる学習者主体の授業づくりにつきましては、教員の授業観の転換が非常に重要となってまいります。

こうした教育DXの実現に向けて、まずは、各市町村教育委員会や管理職の理解が非常に重要であると考え、資料下段にありますように教育長会や校長会での周知以外に、各市町村教育委員会や学校を訪問し、県の方向性や具体的な授業イメージについて動画やチラシなどを用いて共有し、理解と協力をお願いしているところでございます。

さらに、具体的な取り組みの1の中に示しております、令和の学校教育を考える推進会議や教育DXの研究指定校による授業づくり講座において、より具体的に授業観の転換を進

めてまいります。先週行われました教育 DX 指定校の授業づくり講座では、100 名以上の参加がございました。参加者が実際の授業をとおして、教育 DX による学習者主体の授業の必要性や意義について学ぶことができました。

これらの授業観の転換に加えまして、家庭学習のイメージの転換として、授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化の推進も重要であると考えております。これまでも予習と復習の往還を意識した実践はありましたが、端末の持ち帰りによって、より活用の幅が広がり、探究的な学びが充実すると考えます。自分なりの考えを持って授業に参加し、友達との対話をとおして新たな知識を獲得したり、自分の考えをより広げたり、深めたりするといった過程を繰り返すことで、学力の向上を図っていきたいと考えております。

また、こうした取り組みを進めていくためには、教員や児童生徒に一定のスキルが必要となります。そのため、教員の ICT 活用指導力の向上については、ICT スキルアップ研修などとおして、端末の効果的な活用に必要なスキルの向上を図ってまいります。

そして、児童生徒の ICT 活用力の向上につきましては、高知県タイピング選手権やデジタル作品コンクールを実施し、表現力や発信力、創造性を育てまいります。

以上で、小中学校課からの説明を終わります。

#### (高等学校課)

続きまして、高等学校課でございます。よろしくお願いいたします。

お示ししております資料、もしくはお手元の資料 28 ページ目をご覧ください。

社会構造の変化に伴い、学校教育も変化をしております。高等学校におきましても個別最適で協働的な学びが求められております。そのため、現在の板書講義の教え込みから脱却をし、生徒の見方・考え方を念頭におきました生徒の主体的な学びが実現する授業改革を進めているところでございます。そのような授業では、生徒が自ら学びを調整し、試行錯誤しながら自ら課題を設定し課題に立ち向かう探究力が重視をされてきます。

第 4 期高知県教育振興基本計画では、授業改善サイクルの確立、授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化に取り組むこととしております。

29 ページ目になります。

具体的には、放課後や家庭などの授業外では、事前に提示をしました学習課題や授業の学習内容を復習や予習に取り組み、授業では予習と連動した学習者主体の授業をすることで、1 人 1 台タブレット端末等の活用による授業と、授業外学習のシームレスな学びを実現していくこととしております。

この後、ご発表いただきます高知国際高等学校では、既に探究学習に重点を置いておりまして、日ごろの授業から生徒の探究的な学びを取り入れた授業を実施しております。その一つの手法として、授業と授業外学習のシームレス化にも取り組んでいる学校になっております。

それでは、高知国際高等学校の高野校長先生から具体的な取り組みについて、発表をしていただきます。高野先生、よろしくお願いいたします。

(高野高知国際高等学校長)

高知国際高等学校の校長の高野と申します。着座にて説明をさせていただきます。

本日は、本校の取り組み発表をする機会をいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、早速本校の ICT を活用した探究的な学びの取り組みについて説明させていただきます。

まず、本校の概要でございます。本校は、併設型中高一貫教育校であり、中高合わせて 1,080 名の定員規模の学校でございます。そして、令和 2 年 11 月に国際バカロレア機構からミドル・イヤーズ・プログラム、MYP 認定校として、令和 3 年 1 月にはディプロマ・プログラム、DP 認定校として認められ、世界共通の試験を経て、世界中の大学において、出願の際に活用することができる成績を得ることができる国際バカロレア教育を実践しております。

これらの認定は、学校全体で受けており、主に、高知国際中学校と高知国際高等学校のグローバル科で、国際バカロレア教育に取り組んでおりますが、普通科においてもそのノウハウを活用して、探究的な学びを推進しております。国際バカロレア教育とは、一言でいえば大学での学びを意識した探究学習といえると思います。

こちらの 32 ページは、本校の教育目標でございます。将来、グローバル人材として国内外で活躍できる人材育成を目指し、学び方を学び、生涯にわたって学び続けることができ、多様な価値観を尊重し、他者と協働して活躍できる人材となるよう教育に取り組んでおります。

この 33 ページのスライドは、国際バカロレアのミッションをお示ししたものです。世界平和の構築に貢献できる探究心・知識・思いやりに富んだ若者の育成を目的としております。これらの国際バカロレアの教育目的は本校の教育理念や目標と一致するものであり、探究的な学びを推進するねらいがございます。

今日、お示しする内容の柱となりますのは、探究的な学びは、学校の授業と家庭学習のシームレス化を推進するということでございます。探究的な学びは、授業時間だけでは完成いたしません。放課後や家庭での学習との接続が重要ですし、そういった学習の流れとなるモチベーションの向上にも探究的な学びは有効でございます。いわゆる授業と家庭学習のシームレス化を推進するということでございます。

そして、こうした探究的な学びは、ICT の活用により円滑に進めることができます。このスライドは、本校が考える探究的な学びをお示ししたものでございます。生徒が主体的に調査・分析を行い、その結果を基に自分の考えをまとめ、言語化したものを相互に発表し、意見交換をとおして、より深い理解につなげていくものです。そして、新たな気付きが次の探究テーマとなる探究のサイクルへ発展してまいります。また、学習活動をどのように進めていくのか。授業・放課後・家庭、それぞれの場面で生徒が行うことを明確化することが大切です。ここにお示したように生徒が個人でできること、クラスメイトすなわち集団でできることを整理し、それらを有機的につなげていくことで学習のシームレス化を図ることができます。

この 37 ページのスライドは、ICT の活用についてお示ししたものです。教員が課題を提

示し、生徒が課題に対する答えを作成・提出する他、説明動画を活用して生徒が必要なときに振り返りができるようにするなど、授業と家庭をつなげるための ICT の活用や、共同編集を行うなどの生徒と生徒、生徒と教員をつなげるための活用がございました。こうした ICT の活用により探究的な学びの充実を図ることができます。これらの取り組みは本校の授業改善の中で、各教職員が取り組みを進めているところです。全ての授業で実施するレベルではございませんが、国際バカロレア教育における MYP や DP を実施する中では、かなり進んでおります。

本校の開校準備の段階から、いろいろな立場の方から「探究的な学びをとおして、大学入試に対応した学力を身に付けることはできるのか」というご質問をよくいただきました。その質問に対して、「知識がもっとも身に付く学習活動は人に教えることであり、探究的な学びは、生徒が自分の考えを言語化して分かりやすく伝える活動が多いので、知識はより定着する」と説明してまいりました。この 3 月に第 1 期生が卒業し、ようやく進路実績をお示しできるようになりました。合格実績として、海外大学では世界大学ランキングで東京大学を大きく上回るメルボルン大学など 4 名、国公立大学では旧帝大 3 名、医学部医学科 1 名を含む 125 名、上智大学など、いわゆる難関私立大学に 27 名などの実績となりました。これらのことは、探究的な学びをとおして思考力・判断力・表現力をはじめ読解力や応用力が身に付いた証しになると考えております。

この 39 ページのスライドでは、本校において ICT 活用がなぜ進んだのかをお示ししております。世界の国々では教育における ICT の活用が進んでおり、特に国際バカロレア認定校では、これまでお示した探究的な学びを実践するとともに、国際バカロレア機構に生徒の作品を提出する場合にもオンラインで行うこととなっているなど、ICT の活用は常識化されていたことから、本校においても生徒は文房具の一つとして、ICT を活用することに取り組んでまいりました。こうしたことが、本校で ICT 活用が進んでいる要因になっていると考えております。

次に、本校での ICT 活用の例をお示いたします。ここにありますように、レポートなどの共同編集や CASIO の Class Pad の活用、実験動画を活用した生徒実験の実施などの活用をお示しております。

それでは、動画にて実際の例をご紹介します。

(動画上映)

以上で、高知国際高等学校の発表を終わります。最後までご清聴ありがとうございました。

(高等学校課)

高野校長先生、ありがとうございました。

それでは、再び高等学校課から説明をいたします。前の画面もしくは資料 44 ページをご覧ください。

発表いただきました高知国際高等学校をはじめ、県立高等学校 9 校が文部科学省の事業

であります高等学校 DX 加速化推進事業、いわゆる DX ハイスクールに採択をされております。この DX ハイスクールは、デジタルなど成長分野を支える人材を育成するために、情報や理数の教育を重視したカリキュラムを実施し、高性能パソコンなどの ICT を活用した文理横断的な探究的な学びの強化を支援する国の補助事業として、採択校には 1 校当たり上限 1,000 万円の補助がございます。

発表いただきました高知国際高等学校以外でも、例えば高知東高等学校の看護科や窪川高等学校の地域課題研究などで活用するというようになっております。

現在、県立学校では 1 人 1 台端末が導入されて丸 2 年がたっております。昨年度末に実施をいたしました全生徒アンケートでは、小中学校と同じ程度に活用が進んできております。また、授業での端末活用に対しまして、役に立っていると感じている生徒が 94% となっております、生徒の期待も大きいところです。

資料 43 ページをお願いいたします。

こちらの資料、上側でございますように、教育大綱・教育振興基本計画で目指す確かな学力を育み、自立した学習者を育成するためには授業改善を一層進め、これまでの授業観を変革する授業改革に取り組む必要がございます。生徒主体の授業を実現するために、文言の修正や図式化、他者との共有など様々な局面において、デジタル技術の活用は圧倒的に効率が良くなっています。併せまして、授業者の問い掛けに対して、生徒がどう考えるか、どう深めるかといった生徒の主体的な活動や探究心を引き出すことにつながると考えてございます。その意味で、デジタル技術の習得、こちらはもちろんでございますが、授業者には併せて授業を構想し、デザインする力というものがなくなってまいります。

一方で、高等学校では大学進学を希望する生徒が多い、いわゆる進学校、工業高校や農業高校など産業教育に特色のある専門学校、多様な進路希望の生徒が多い進路多様校など、学校によって生徒の様子や学習内容、カリキュラムは様々でございますが、全ての学校で生徒が主体となる授業を目指す必要がございます。

そこで、高等学校課におきましては、教育 DX の推進を図るために本年度より新たに学校支援教育 DX 推進室を編成し、各校の特色や実態に合わせ、デジタルツールの効果的な活用についての授業モデルを指導主事が学校の教員に実際に示すという取り組みも進めているところでございます。

近年では、生徒の多様化もあり、中央教育審議会が示す令和の日本型教育、ICT を効果的に活用した個別最適な学び・協働的な学びの実現が求められております。そうした授業を構築するためには、1 人 1 台タブレット端末の活用が非常に有効であり、生徒の主体的な学びにつながるという状態を目指して統括して学校を支援してまいります。

高等学校課の説明は、以上でございます。

(司会)

ありがとうございました。では、事務局より説明がありました内容やご発表いただいた取り組みなどについての協議や発表者との意見交換、質疑応答に移らせていただきます。

各発表者より教育 DX に関わる具体的な先進事例など貴重なご発表をいただきましたの

で、まずはご質問やご感想をお願いいたします。どうぞ。

(池委員)

香美市教育委員会の上村統括官、それから鏡野中学校の切詰校長先生、高知国際高等学校の高野校長先生、貴重な発表をありがとうございました。さすが先進校だということで、感心して見せていただきました。今、これから求められる教育というのは、要は子どもたちが知的に自立することが大きな目標ではないかと思います。短い授業の様子でしたが、それが十分できている、その可能性が見える発表だったかと思っています。

また、令和の日本型教育の中で教師の役割がいわれておりますが、伴走者であると、子どもたちと共に授業で伴走するということがいわれているんですが、見せていただいた動画の中では、そういう形が十分見てとれます。非常に効果的に ICT 活用ができていて素晴らしい取り組みだと思います。

あとは、その先進校の素晴らしい取り組みが他の多くの学校にどういうふうに広がっていくかということが今後の大きな鍵だと思います。もちろん教育委員会、指導主事なんかで行っていくということもあるでしょうが、ぜひ、先進校の皆さんには、いろんなところで研究発表、全校的な研修みたいなものにご招待いただいて、発信をしていただきたいと思います。

前回、自分から、昨年度最後の会で、いろんな先生方がやっぱり ICT 機器に対して、二の足を踏む状況があって、広がるのはなかなか難しいんじゃないかという話をさせていただいたときに、デジタル教科書などの活用はどうかと発言もしたんですが、世の中どんどん進んでいて、この4月に改訂された紙ベースの教科書には、二次元バーコードが散見されています。ですから、1人1台のパソコンを子どもどもたちが持っているので、それを活用することで、大いに教育の中身が広がっていく可能性が出てきていると思います。特に発表者のお話を聞いて、これからそういう教育が必要だとさらに実感できたという印象を持ちました。ありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。永野さんお願いします。

(永野委員)

では、私の方からも申し上げます。

まず、香美市の上村先生の方に質問させていただきます。このDXの本格的な取り組みの前にGIGAの取り組みが全県下に位置付けられ、コロナ禍でもありました。そのGIGAの時代の課題がどういうふうに今のDXに生きているかというのを1点お伺いしたいということです。

それから、切詰校長先生には、このGIGAの時代からずっと関わられてきて、今校長先生として実務を、指揮を執られてるんですけども、この総合教育会議でもたびたび話題に

なりますが、いわゆる授業と、今日も言っていた授業外の連携も柱にありましたけれども、子どもたちが使用するパソコン等を家庭で本当に自由に活用できたのかどうか、それが今、子どもたちの日常として教室の中で、多分生きているのではないかと想像するんですけれども、そのときのその課題とか、あるいはその課題をどのように解決して授業に反映されているのか、少し細かいですけれども、興味がありますので聞かせていただきたいと思います。

(上村統括官)

ありがとうございます。永野先生には、以前、私の前任の大栃中学校へ来ていただいて、学校を見ていただいたこともあるんですけど、GIGAのこの3年間の取り組みについての課題ということでもよろしいですか。

自分は学校の中では、精いっぱいその間にできることで準備もしてまいりました。ただ、市内の中でもやっぱり規模であったり、教師間では取り組みのスピード感に、ちょっと差が出てきていたりとは自分は実感しております。

今、市教委の方にも入って、いろいろ学校へも進めているんですけど、学校のスピード感は早いです。今、すごく勢いを持って、県の方も力強く取り組んでやってくれているところに、私どもの動きもあたりしなながら、学校が本当に一丸となって、この取り組みを進めていると思います。本当に課題というと、慎重にみたいなところから、なかなか実践も生まれてこなかった部分が、今、そういうものを、とにかく、子どもに持たそうというところから始まっていくところに、全ての学校が進んでいるんだと自分は感じております。

(切詰鏡野中学校長)

ご質問ありがとうございます。私も含めGIGAの時代は、教員が自分の技術の習得に奔走していた、タブレットを使って授業をどんなにしようかというところに本当に、現場の教員は特にそうですけれども、奔走していたような気がします。

今、この教育DXになって、タブレットに慣れてきて小学校から使ってきてくれて、子どもたちが使えるようになってきている。教員よりもっとという語弊がありますが、子どもたちがさっさといろんなことができるようになっていく中で、自分たちの危機感もあります。ここにもちょっとファイルしておりますけれども、県からお示しいただいているこの教育DXって、チラシもすごくコンパクトで分かりやすく、自分たちが課題解決的な学びをやっていたところに、このツールが見つかったというか、使いやすく、子どもたちの可能性を本当に容易にできるようになったという感がすごくあります。

家庭学習とのシームレス化ですけれども、具体的には持ち帰りは行っています。当然、毎日のようにほぼほぼ子どもたちは持って帰っていますけれども、それも自主学習ノートというものも位置付けておりますので、子どもたちが必要なときに持ち帰って、そこも選択している部分もあります。次の授業の予習であったり、これ調べてこようかなって子どもたちが自分で思うこともあれば、教員がこれをちょっと調べておこうかということもありますし、復習でも使っていると思います。ドリル系も香美市が入れてくれていますので、

活用しております。

そういうふうに、本当に子どもたちがちょっと簡単に、よく言われる文房具と同じように持ち帰って、子どもたちの判断でやっているところが、GIGAの時代から変わってきたところじゃないかなと思います。

(森下委員)

今日は本当に先進的な取り組みのご発表をありがとうございます。DX化で、どのように変わってくる、子どもたちの姿がどう変わっていくのかということが具体的に画像もありましたので、すごく私たちもイメージができました。高知国際高校の方は私も学校運営協議会の委員で入らせていただいているので、生徒さんの発表が本当に全員が生き生きと発表されていて、中学校1年、2年、3年、高校1年、2年、3年と本当に段階的に成長していく発表が見えて、それはこのようなDX化に取り組みされた成果じゃないかと、改めて思いました。

ご質問を香美市さんの方にさせていただきたいんですけれども、この授業観の転換とかを頑張ってこられたことがとてもよく分かったんですけど、何が一番のキーだったのかというところ、先ほど生徒さんがやはりICTを使うことで、先生たちが危機感を生んだんだというようなお話もあったんですけど、どんなことを工夫していったのか、何が大事だと思ったのかというところを少し教えていただきたいです。それと、授業と授業外のスムーズな接続ということで、やはり授業と予習と復習のサイクル化、やっぱりここがすごく大事なと改めて思ったときに、いつもこの総合教育会議で、話題になるんですけれども、なかなか生徒さんが持ち帰れないところの一つのハードルに、自宅のインターネット環境が、やはり大きなハードルがあるというのが、よく上がるんですけれども、どのように解決されていったのか、工夫されていったのか、少し教えていただければと思います。

(上村統括官)

市教委から回答させていただきます。

まず、DX化っていうのは、ICT化とは違うということです。DX化とは、その機材を使っていきながら、整備をしながら授業をするというものではありません。やっぱり授業観の転換というのは、本当に児童生徒主体の授業へどう持ってくるか、今までの延長等ではない。これは前からとも言われますけれど、先生方の授業観をこのICTを入れることによって、大きく変えていきたいと思います、変革といいますか、そういうところがなかなかハードルが高いと思います。

今後目指していくのは、やはり自立した学習者というところにはなろうと思うんですけど、そこを目指してやっていくためには、やっぱり子どもの主体性、子どもに任ずるところが大事、そういうところがこのDX化と自分は捉えておりますし、香美市の方からも、県の方もそうだと思いますけれど、発信をさせていただいているところです。

それと、インターネット環境についてになります。実は香美市のタブレットPCは全てSIM対応になっています。SIM対応というのは、パソコンの中にSIMが差せるタイプで、こ

これは、実は当初から持ち帰りを前提としていたと考えていました。ただ、全てのパソコンに SIM が入っているのではなくて、職員室で SIM を入れられるということで、教員分の SIM を学校の方にお渡ししています。ネット環境がない家庭については、教員の SIM を子どもの方に貸し出すという対応をさせていただいたところになります。

ただ、セカンド GIGA で、また入れ替わりのときになったら、多くの家庭の方がもう対応もできるところになるので、そこの辺りはちょっと考えていきたいと考えているところです。

(弥勒委員)

ありがとうございます。本日もすごくいい勉強になりました。いつもこういうお話をお聞きすると、教育の目的というのは、子どもたちがいかに豊かな、そして幸せな人生を歩めるか、そのための様々な気付きを与える、あるいは必要なスキルを、あるいは必要な資質、能力、習慣を身に付けてもらうことが目的ではないかと思っております。

そのためには、いろんなものも実は学ぶ必要があるというふうになんて私は思うんです。例えば学生ときは大嫌いだった倫理とか、哲学とか、そういうようなことをすごく大事なことのようないふくもします。いわゆる読み書き、そろばんといわれる昔からの今日の DX とは、あるいは ICT とは対極にあるようなことだと思うんですけれども、いまだに会社の中で、何人か集まると白板で問題を書いて、その議論をリードするというような場面もリーダーには求められるんですけれども、そういうときには、もちろんコミュニケーション、あるいはある程度の読み書き、漢字がちゃんと書ける、そういうレベルが、ある意味では必要とされる場面があると思うんです。

私自身も日ごろから、パソコンを使っていると漢字が分からないとか、そういうことを感じる事があって、ときには、やはり手書きは、すごく大事ななと思っています。ですので、それと関連するんですけれども、DX あるいは ICT には、あるいは AI も含めてですが、ものすごく強力な長所もあると思う一方で、すごく大きな短所というか、全てそれに依存してしまうと、つまり全てサポートされていると、人間の能力がどんどん退化すると思うんです。運動能力とか、それが一つの典型だと思いますけれども、ある意味では、AI が全て答えを教えてくれると、自分で学ぶ、あるいは自分で考える能力が、何か衰えていくんじゃないかなという、漠然とした脅威も感じる今日このごろです。

ですので、そういう意味では、いわゆる DX、あるいは ICT、様々なツールの長所と短所を正確に認識して、それを生徒の皆さんにも理解してもらうことが大事なんじゃないかなと思いました。

持ち帰りの端末ということで、自宅へ持って帰っていただいて、自由時間を予習復習に充てるか、それとも楽しいゲームに充てるかというような、時間の取り合いになると思うんです。いかに生涯を通じた学習が、自分のその豊かな人生あるいは本当に幸せな人生を歩む上で、必要なんだということを心から気付かせるような体験をしてもらうという、そういう体験の機会をリアルでもリモートでも与えていただくということも、学校には有意義なことなんじゃないか、生徒にとっても有意義なことなんじゃないかと思いました。

(司会)

ありがとうございました。漢字が分からないというのは、よく私もそういうことがあります。

(事務局)

参事の鈴木でございます。先ほど、まさにおっしゃられました ICT、本当に強みもあれば弱み、メリット・デメリットは当然でございます。まさに使いどころのお話かと思えます。短所・長所それぞれ見いだしながら、ICT を使うべきところと ICT では合わないところがあります。そこは授業改善というのが目的、子どもたちの力を身に付けるということが究極の目的で、使うこと自体が目的ではございませんので、その使いどころを強み弱みをそれぞれしっかりと意識しながら取り組んでいくことも当然重要でございます。そこを先生方がしっかりと見極められるような認識もしっかりと広げていけるように取り組んでいければなと思っております。

また、学習の意欲に関しましても、先ほど個別最適な学びの中で、子どもたちのキャリアの形成の方向性などにも、あとは関心や興味、それに応じて最適となる学習を調整するというのも、個別最適な学びの一つの意味であると申し上げました。やはりそういったことも当然重要でございまして、子どもたちの関心・意欲に沿い学習を調整することによって、子どもたちの学習の意欲も高まると思えます。ICT も使いどころによって、うまく使いながら取り組んでいくということが重要であると考えてございまして、県教委として進めていければと考えております。ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございました。教育長からも何か一つ。

(長岡教育長)

まず香美市の切詰校長先生、上村先生におきましては、本当に教員の授業観の転換ということで、かなり苦勞することだと思いますけれども、よくよくリードされて、今まで授業観の転換されてこられたことに対して、本当に敬意を表したいと思えます。

また、高野校長先生、高知国際高校につきましては、本当にこれまで、これで本当にいいんだろうかといういろいろ考えながらされてこられたんじゃないかと思えます。特に探究的な学習を行って、本当に学力が付くのか、大学進学は大丈夫なのか、しっかりそういうことも、ご意見もいろいろあったんじゃないかなと思えます。その中で、しっかり学ぶ力や考える力を付けられて、大学進学についてもきちっと成果を出されたということで、本当に頭が下がる思いをしております。本当にありがとうございます。

その中で、今も少しお話にあったんですけれども、やはり学ぶ力、探究といったときには、基礎的な学力とか、基礎・基本を定着させた上で、やはりそれを有効に活用して課題を解決していくことが基になってくるのではないかと。そして、課題を見つけて課題を解決

する過程が、非常に主体的であれば主体的であるほど子どもたちは面白い。

でも、その前には、やはり基礎の基礎練習、反復して腹筋運動するとか、キャッチボールを確実にするとか、そういった学習も必要になってくるのではないかと。こういうところの見極めが非常に大変なんじゃないかと思えますけれど、基礎・基本を身に付ける上で、ICT とかの効果的な活用というのは、どのようにされたのかを少し教えていただけたらと思います。

(高野高知国際高等学校長)

弥勒委員のご発言にも絡んできますけれども、やはりいろいろな場面で学習をする、いろんな方法があると思います。本校はデバイスフリーですから紙ベースでいろんなものを掲示法のような形でやっていったりとか、あるいは普段ラップトップだったり、デスクトップだったり、このようにプロジェクターで映すとか、あるいは本校はおかげさまで、教室以外にもたくさんフリースペースがございますので、教室を飛び出して環境を変えていくこともできます。そういったところでいろいろなものを触れながら、文字で自分で直接書く表現は、例えば書道ですとか、そういったものをしっかり鑑賞して、一体これはどういうことを表しているのかとか、そういったところなんかも、それを気にしながら進めているところでございます。

それから、先ほど教育長の方から基礎・基本の話がありましたけれども、常にグループ学習とかしているわけではなくて、当然最初はしっかり教員がレクチャーをする、あるいは基本のところを家庭でまず読んできて、自分たちが課題をやって、それを持ち寄ることで授業が成立をしていきます。先ほどご紹介した授業では、各地形ごとに生徒が全部調べてきて、それを発表することが、基本の部分になるというところでございます。

あとは、非常に私も気付かされましたのは、国際中から国際高へ来る生徒は、英語については中学校段階からかなりコミュニカティブな授業をしております。本当に英語は積極的に使おうとしているんですけども、中学校から高校にきたときに、もっとアカデミックなことを話したいとなったら、文法が必要だということに生徒が気が付きます。やはりそういった基礎が大事だということの気付きによって、SVC などの文法事項を学習するときに全然入り方が違ってきます。例えばスポーツでもそうだと思います。「野球をやりましょう」といって、ずっとキャッチボールをやるだけでは、これは基礎・基本ですけども、やはりゲームをすることで野球の面白さを知る。そうすると、じゃあきちっと投球するためにはキャッチボールが大事だっていうふうに、実際の活用の面と、基礎・基本というものを繰り返していくことで、さらにしっかりと基礎も身に付きますし、基礎が充実することで応用部分がさらに深まってまいりますので、そういった流れの中で学習に取り組んでいきたいと考えております。

(長岡教育長)

ありがとうございます。つまり、やっていること、学んでいること、あるいは学習していることの必要性を、やっぱり学習者である子どもたちが感じるということが大切なんだ

と思います。併せて、やはりこの ICT につきましては、例えばインターネット検索によって、新しい知識とか情報を得ることが一つあると思います。また、友達と自分の考えを交換していくことも、これによってできると思います。さらには、パワーポイント等を使って、自分の考えをまとめて発表する。そんな学びもできるということです。

この使い方は、まだまだ広がっていくんじゃないか。特にこの前出されましたいわゆる骨太の方針の中では、いわゆる国際交流の強化をこれを使って図っていきます。あるいは、AI の活用による英語教育を充実させる。さらには世界の人々につながるツールにする。あるいは、日本の他の地域の高校生とつながる。大学生とつながって意見交換をする。まだまだこの学びっていうのは広がると思っておりますので、ぜひともまたそれぞれの学校で、あるいは地域で研究をしていただいて、それを高知県全域に広げていただければ、非常にうれしいと思います。また、よろしく申し上げます。

(司会)

ありがとうございました。残り時間もわずかとなってまいりましたけれども、事務局からの説明内容などについてのご意見やご質問などがありましたらお願いをしたいと思いますが、いかがでございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、最後に知事の方から総括をお願いできますでしょうか。

(濱田知事)

本日は、どうもありがとうございました。半分質問したいところもあるので、もしコメントがあればお願いします。一つは弥勒委員、そして長岡教育長からお話があった部分と重なりますが、今回の探究学習での DX 活用というのは本当に興味しましたけれど、こういう高度な形で活用していただいているのは、大変頼もしく思いました。

一方で、やはり学校教育には、かつての言い方ですと知識の詰め込みとか、暗記とか、ややネガティブに言われる部分もありますけれども、やはり基礎的な知識の習得とか、ルールの習得とかいう部分があると思うので、そういった部分に関しても、恐らくこの 1 人 1 台タブレットの活用ということはあるのだろうと思います。例えば歴史のいろいろな事実を、それなりに知識として覚えるとか、あるいは数学とか、理科などの公式とか原理みたいなものをある程度ベースなものを覚えるというか、身に付けるというか、そういったところにもおそらく活用はされているのだろうと、その辺り実際どうかと少し疑問に思いながら、今伺いをしたいところです。

もう 1 点は、これも教育長からもコメントがありましたけれども、こういう探究授業をこうした形で新たに展開していただくというのは、現場の先生方のご苦勞、本当に大変だろうと思いますのと、こういった探究学習について、これは私も実態は分かりませんが、やはり学校の授業、教育課程の一環としてされるということになると、生徒の一人一人の評価をしていくことも避けては通れないと思います。知識の方は、丸ペケで点数付けは簡単だと思いますけれども、探究学習になるとなかなか難しい点があり、先生方のご苦勞が、おそらく非常に多いのではないかと思います。そういった点について、

何かご苦勞なり、こうした工夫をしておることがあれば、知りたいと思ったところ  
です。

(司会)

1点目は基礎的な知識の習得への活用、もう1点は、取り組みの評価に対する苦勞とい  
うところについて、では事務局の方からお願いします。

(小中学校課)

小中学校課でございます。まず、基礎の習得についてでございますが、授業づくり自体  
は、習得・活用・探究というような流れで行うようになっておまして、先ほど香美市  
の方からもご説明があったと思うんですけども、やはり一定必要な知識・技能については、  
単元の最初の方でしっかりと身に付けていく、あるいは、それを繰り返すことによって定  
着を図っていくというような形で行っております。さらに、先ほどのご発表の中にもご説明  
ありましたデジタルドリル等で復習的なことをやりながら、定着させていくというよう  
なこともやっているところなんです。

続きまして、その探究についての特に評価の部分についてですが、これにつきましては、  
指導と評価の一体化ということが文部科学省からも言われておまして、常に指導を振り  
返りながら、子どもたちに一定の評価をしていく。これを繰り返すことにより、評価に対  
する教員の見方、あるいはその視点というのもしっかりとしていく。それにより、子ども  
たちにしっかりとした資質・能力が身に付いていくというつながりがございます。

そういうところにつきましても、授業づくり講座等におきまして提案をさせていただ  
いているところでございます。

(司会)

ありがとうございました。それでは、引き続きよろしく申し上げます。

(濱田知事)

どうもありがとうございました。以上のお話の上で、非常に今日の話は私は興味深くお  
聞きいたしましたし、いろんな段階ごと、局面ごとにこの1人1台端末、そして、デジ  
タルを使っただけの教育の技法というのが、いろんな活用の可能性がまだまだあるし、これを広  
げていかないといけないということだと思いますので、そういった形で1人1台端末を  
活用しての基礎的な部分を含めた学力向上への活用という部分、そして、より高度な今回  
ご紹介いただいた探究学習で、まさしく児童生徒一人一人の習得状況に応じて、より高  
いレベルに伸ばしていくところに、この探究学習などを通じて貢献をしていただくとい  
うこと。いろんな局面で、ぜひ、1人1台端末・DXという基盤をつくり、デジタル教育のツ  
ールを生かしていくということを、今回の先進校の取り組みを参考にさせていただ  
いて、県下全体で、また、それぞれまさしく子どもたち一人一人の状況に応じて活用  
ができるようにということで、ご尽力いただければありがたいと思います。以上です。

(司会)

ありがとうございました。

以上で、本日予定されている議題については全て終了いたしました。

それでは、次回の日程についてお知らせをいたします。第2回の会議では、第3期教育大綱の進捗状況、および改訂の方向性などについて協議ができればと考えております。日程は、11月を予定しておりますが、詳細は追ってご相談をさせていただきます。

以上をもちまして、令和6年度第1回高知県総合教育会議を閉会いたします。

皆さま、本日はどうもありがとうございました。